人形劇まつり２０周年ニュース　NO. 5

やわた人形劇連絡会 2013.6.
yawata.ningyougeki@gmail.com
http://yawataningyogeki.web.fc2.com/

～ ふるさとから未来へ ～

やわたを想い愛・感謝を感じよう

やわた人形劇まつり２０回公演
７月７日開催！

やわた人形劇祭り２０回目の記念公演に私達の活動拠点である八幡のむかし話を題材に人形劇を作ろうと、大原めいさんに指導をお願いしたのが二年前、いよいよ本番が近づいてきました。めいさんに「何も決まっていない霧の中を船に乗って進んでいくのだから、みんなで漕がないと進まないよ」と声をかけてもらい、何とかここまでみんなで漕いできました。人形も出来上り、練習にも力が入ります。私たちが行ける一番遠くを目指して、最後まで力を合わせて漕いでいきます。

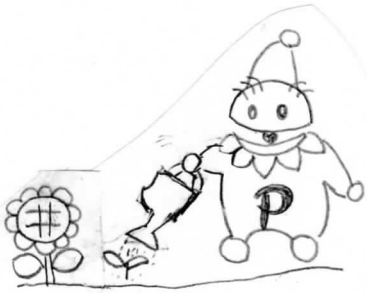
先日、神門やすこさんと音楽劇団てんてこの河合正雄さんがきてくださいました。神門さんには紙芝居の絵を見てもらい、描いていて迷っているところを相談しアドバイスをもらいました。河合さんには、楽器の鳴らし方や効果的な音の入れ方などを教えてもらいました。楽器を鳴らす時もセリフを言うのと同じで、どんな状況で誰に向けて鳴らしているのかを考えて鳴らすといいなどのアドバイスをしてもらいました。それから、手作り楽器のプレゼントまで頂きました。神門さん・河合さんありがとうございました。

鯉ものがたりの台本は、それぞれが書いた台本をもとに話し合い一つにまとめていきました。まとめてくれたまーちんは、大原めいさんのアドバイスを参考に何度も何度も台本を書き直し、今の台本に仕上げてくれました。まーちんに台本作りの苦労を聞きました。

～「鯉ものがたり」の脚本を担当して ～　　まーちん（たまてばこ）

天から言葉が降ってきた！脚本が書けなくて困っていた私の頭の中で、ある時突然声が響きました。「とざい、と-ざい！」冒頭の黒子のシーンです。それからは、一気に書き上げました。放生川、農耕ミュージカル、医者・玄庵…。 実は、元太が友だちと畑の草を引くシーンは一番最後に思いつきで入れたものです。今ではとても重要なシーンになっていて、入れてよかったなと、思います。「鯉ものがたり」は、脚本の土台は私が作りましたが、メンバー全員の思いが詰まっています。登場人物、時代背景…何回も議論を重ねました。皆の意見を一つにまとめるのはなかなか大変でしたが、苦労した分出来上がった時の喜びは格別でした。この作品で私が描きたかったのは、親子愛だけでなく、主人公元太の成長です。周りの人々の助けを借りて、子どもから少し大人に近づいていく…。時代は違っても、今の子どもたちに伝わるものがあれば…と思います。めいさんのご指導のおかげで私の書いた脚本はどんどん進化しています。どんな「鯉ものがたり」が出来上がるのか。とても楽しみです。

人形劇連絡会の代表のくっさんに、２０回記念公演への思いを聞きました。



～２０回記念公演へのおもい～

くっさん（じゃんけん・ぽん）

２０回も良く続いたあ～と、自分が一番感じています。

こんなに続けてこれたのも教育委員会や生涯学習センターの方々のご協力と、人形劇まつりに足を運んで下さった地域の方々や子どもたちのおかげだと思っております。本当に感謝しております。仕事で思うように休みが取れず、製作（仕込み）にはほとんど参加できなくて、連絡会の人には迷惑をかけてしまったり、少ないセリフがなかなか覚えられず苦労したこともありました。不安もありますが、７月７日の本番が楽しみです。

やわた人形劇連絡会の副代表として、今は舞台監督として、いつも私たちの先頭に立って、頑張ってくれているひめに、話を聞きました。

～舞台監督をやって～

ひめ（ちゃりんこ）

「舞台監督って、何をするんですか」から始まった20周年記念公演作品作り。何もわからず、一つ一つめいさんに教わりながら、それでも出来ていなかったり、皆に迷惑をかけたり嫌な思いをさせたりと反省する所は多々ありました。

記念公演の集まりは昨秋から30回以上、各グループ練習も入れると40回以上になります。皆、仕事を持ちながら、仕事をしながら土日の練習を頑張るメンバー、夜勤明けで一睡もせず練習に参加してくれるメンバー、家族の協力に感謝しながら、皆頑張ってくれています。この公演を良いものにしたいという一心で！

そして、二年前の最初の話し合いから、今までに50回以上も八幡に足を運んでいただき、一緒に作品を作り考え、ご指導頂いた大原めいさんや、舞台スタッフとして優しく見守ってもらっている石橋さん・岸さん・伊吹さんの公演に対する気持ちに、本番のステージで、皆が最高のパフォーマンスでお返しできるように、舞監として何ができるか考えて頑張りたいと思います。力不足の舞監ですが、最後まで宜しくお願いします。

企画委員長のつぶやき

のぶ（紙ふうせん）

思えばあっという間の２年でした。「やわた人形劇連絡会では一応一番若い私が、記念すべき 20 回公演の企画委員長なんてやっていいのだろうか」と思いながら委員長を引き受け、先輩方に助けてもらいながらなんとかここまでくることができました。そして、大原めいさんには総演出を引き受けていただき、たいへん感謝しております。

人形がなかなか仕上がらなかったり、役作りに悩んだりとしんどいこともいっぱいありましたが、めいさんや連絡会のメンバーと過ごした時間は、素敵なものでした。７つの劇団が 1 つになり、めいさんを中心にして、人形作り・絵・衣装制作など、連絡会のメンバーそれぞれが自分の得意な分野で、力を出して取り組めたことは、私たちの宝です。このチームワークで、本番も頑張ります！楽しみにしててくださいね～